

# 中学校におけるSWPBSの持続的な発展のための ミドルリーダーの実践

学籍番号 199112  
氏名 谷川 雄一  
主指導教員 長谷川 和弘

## 1. 背景

事例校は、開校以来45年の長きにわたって、生徒による問題行動の頻出に苦しみ続けた中学校であった。平成28年度には、当時の1年生集団の中で10件以上の対教師暴力・学年の3分の1以上の生徒による授業離脱・日常的な破壊行為等の問題行動が繰り返されていた。学校はその原因を整合性のない指導、ネガティブなフィードバックによる問題行動の弱体化に偏った指導、問題行動の背景を考慮したアプローチに欠けた対症療法的な指導による教職員不信にあると考えた。その改善のために、平成29年7月より大阪教育大学と連携して、当該学年への学校規模ポジティブ行動支援（以下、SWPBS）による生徒指導に取り組んだ。2年間の実践を経て、課題であった生活指導上の困難には改善が見られた。この結果を受けて、事例校では「SWPBSが充実すれば生徒の問題行動が減少する」という仮説のもと、SWPBSが一過性のものでなく、持続的に発展していくための実践について報告を行う。

## 2. 実践研究

### 2.1 実践研究I：令和元年度～SWPBS文化の醸成～

これまで教職員に対してのPBSを行うことで、事例校でのSWPBSも定着してきたが、学校の教職員には一定期間で入れ替わる。多くの教職員が入れ替わってもSWPBSが持続的に発展するために「エビデンス重視の姿勢」「応用行動分析学に基づいた解釈」「ポジティブな行動の強化」というポイントに重点を置いてSWPBSの定着に努めた。加えて、長所を伸ばすという点から、地域とのつながりを活かして、PBSを地域の文化として定着させることを考えた。令和元年度の1年間は「PBSを地域の文化に」を目標に地域へのアプローチに取り組むことを決めた。それと並行して、外部に向けて、事例校はSWPBSに取り組んでいる学校であるという発信を積極的に行い、SWPBSの実行度を測る日本語版TFIの数値が21ptを上回ることを目指した。

## 2-2 実践研究Ⅱ：令和2年度～新たなリーダーの育成～

令和元年度の取組によって、日本語版TFIの数値は目標の21ptを上回った。次の課題として、SWPBSが事例校において持続的に発展するためには、SWPBSの推進を行う新たなリーダーの育成が必要であると考えた。教職員の入れ替わりがあってもSWPBSが持続的に発展することを目的に、「PBS推進リーダーの教諭A」「PBS推進リーダーの教諭B」「生活指導部長の教諭C」「教務主任の教諭D」に対して、それぞれの長所を活かした望ましい行動を設定し、①期待する望ましい行動の設定 ②リーダーの希望実現の支援 ③業務上の負担軽減の支援 ④モチベーションの向上の4つのPBS的な支援を行った

## 3. 総合考察

今回の報告では、「日本語版TFIの数値が向上すれば問題行動が減少する」という仮説をもとにSWPBSの持続的な発展を目指した。令和元年度は地域を巻き込んだSWPBS文化の醸成として、「地域や保護者へのアプローチ」「校区小学校へのアプローチ」「その他の外部へのアプローチ」を行い、日本語版TFIの数値は向上した。また日本語版TFIの数値の向上に伴って、1日あたりの問題行動指導件数・1日あたりの遅刻生徒数の割合・学校教育診断アンケートの結果も向上した。これらの結果から、地域を巻き込んだSWPBS文化の醸成はSWPBSの発展に有効であり、日本語版TFIの数値の向上は生活指導上のデータの改善にも効果的であることを示した。一方で、地域を巻き込んだSWPBS文化の醸成の取組の多くは、PBS推進リーダーの報告者が中心となっていて行なっているものであった。SWPBSが持続的に発展するためには新たなリーダーの育成が必要だと結論づけた。

令和2年度には新たなリーダーの育成という課題に対して、新たなリーダーの望ましい行動を設定し、その望ましい行動が促進されるように新リーダーに対してPBSを行った。その対象にはPBS推進の新リーダー・生活指導部長・教務主任を選択した。そして、新リーダーに対して「望ましい行動の設定」「新リーダーの希望実現の支援」「業務負担の軽減のための支援」「モチベーションの向上のための支援」を行なった。その結果、新たなリーダーたちの手によって事例校の日本語版TFIの数値はさらに向上し、生活指導上のデータに関しても改善が見られた。

2年間の実践を経て、日本語版TFIの数値は令和2年度12月時点で目標としていた21ptを上回り、その目的を達成した。また、仮説の通り日本語版TFIの数値の向上に伴って事例校の問題行動は減少し、学校教育診断アンケートの結果にも向上が見られた。これらの研究結果から、地域を巻き込んだSWPBS文化の醸成の取組と、新たなリーダーを育成するための新リーダーへのPBSはSWPBSの持続的な発展のために効果があったといえる。また、事例校における日本語版TFIの数値の推移と生活指導に関するデータの関連性は、TFIの数値が70%を超える実行度で実施されているSWPBSほど問題行動の減少等の成果につながるというアメリカでの先行研究とも合致する内容となった。